香川県さぬき市教育委員会

国際理解教育の推進とALTの配置拡充

～英語が伝わる喜びから、世界とつながる力へ～

1 はじめに

さぬき市は香川県東部に位置し、北は瀬戸内海、南は讃岐山脈を介して徳島県に接する、人口 42,858 人（令和 8 年 8 月 31 日現在）の自然豊かなまちです。

本市には、四国八十八ヶ所霊場の第 86 番札所・志度寺、第 87 番札所・長尾寺、第 88 番札所・大窪寺があります。これらは、四国遍路の結びとなる「上がり三か寺」と呼ばれ、本市を代表する歴史･文化資源となっており、国内各地から訪れるお遍路さんに加え、海外からの外国人遍路の姿も見られます。さらに近年では、瀬戸内国際芸術祭における開催地域の一つとして、これまでよりも多くの外国人観光客が訪れています。

また、産業の現場では外国人技能実習生をはじめとする外国籍の住民が地域の一員として生活し、活躍しています。



（一社）さぬき市観光協会提供

このように、本市では、観光や産業、地域生活のさまざまな場面において、多様な言語的・文化的背景を持つ人々と接する機会が増えています。異なる文化や価値観を持つ人々との交流は、子供たちにとっても身近なものとなりつつあります。

2 外国語教育の現状と課題

2020 年度から小学校高学年で外国語科が導入されましたが、本市では、2025 年 7 月まで、外国語指導助手（以下「ALT」という。）3 名を、中学校を主な勤務校として配置し、小学校には月に数回程度派遣していました。ALT は、外国語の授業や外国語活動において、児童生徒の指導に当たってきました。また、教育委員会では、外国語活動支援員の配置や学校外でのイベントの開催など、児童生徒が英語に親しむことのできる機会の確保にも努めてきました。

一方で、ALT の配置時間や交流機会には、学校や学年によって差がありました。中学校では、ALT の活用が英語の授業中心となっており、英語以外の授業や学校生活のさまざまな場面における交流は、必ずしも十分ではありませんでした。そのため、生徒が授業で学んだ英語を実際のコミュニケーションの中で使う機会が限られていました。

また、児童生徒の中には、間違いを恐れて英語での発言をためらったり、英語に対して苦手意識を持ったりする姿も見られました。

こうした状況を踏まえ、英語の知識や技能を身に付けるだけでなく、実際に英語を使い、「伝わった」、「分かり合えた」という経験を重ねることにより、英語によるコミュニケーションへの意欲や自信を育む必要がありました。

また、教員と ALT が授業の目標や役割分担を共有する時間の確保、各学校の実践事例の共有、学校、ALT 及び教育委員会をつなぐ連絡・調整機能の充実も課題となっていました。

こうした課題に加え、市内の外国人住民が増加し、社会のグローバル化が進む中で、子供たちには、外国語の知識や技能だけでなく、多様な言語的・文化的背景を持つ人々に関心を持ち、互いの違いを尊重しながら、自ら関わろうとする姿勢が求められています。

本市では、このような力を育むためには、義務教育の早い段階から継続的に英語や異文化に触れ、実際のコミュニケーションを経験できる環境を整えることが重要であると考えました。

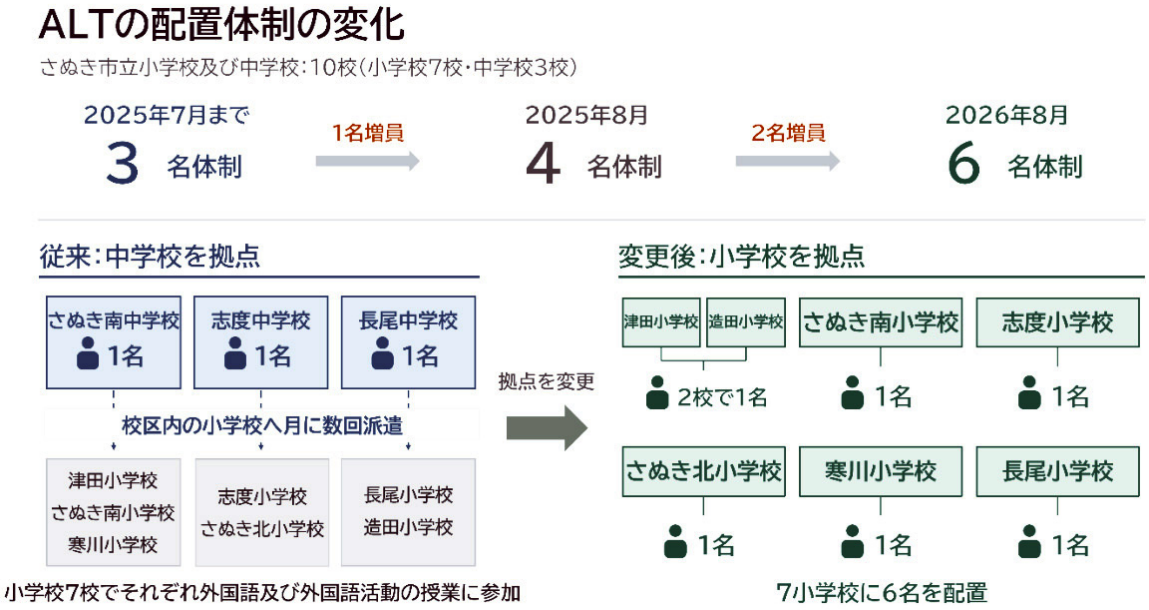
そこで、2025 年度より、ALT を増員するとともに、教科としての外国語学習に加え、学校生活や学校外での活動においても外国語を実際に使う機会を充実させていくこととしました。



3 国際理解教育の推進に向けた取組

（1）学校内における取組

まず、義務教育の早い段階から外国語に親しむことのできる環境を整えるため、ALT を 2025 年度に 1 名、2026 年度に 2 名増員し、従来の 3 名から計 6 名の配置体制としました。あわせて、ALT の配置校についても見直しを行いました。具体的には、ALT の主な勤務校を中学校から小学校へ変更し、市内 7 小学校には各校週 3 日以上、市内 3 中学校には各校週 1 日～ 2



日程度勤務する体制としました。これにより、小学校段階で児童が英語に触れ、英語で伝える楽しさを感じる機会を増やし、その経験を中学校での発展的な学習へつなげることを目指しています。

また、小・中学校における ALT の活動は、外国語や英語の授業だけに限定していません。音楽、体育、特別活動などにも ALT が参加し、児童生徒と触れ合う機会を設けています。総合的な学習の時間には、ALT が出身国の生活や歴史などを紹介しているほか、給食、休み時間、清掃などにも参加し、児童生徒との日常的な交流を深めています。

こうした日常的な交流は、一つ一つは小さな取組ですが、学校生活のさまざまな場面における自然な交流の積み重ねが、児童生徒にとって外国語を身近に感じるきっかけになっています。また、児童生徒が異なる文化や習慣への関心を高め、その違いを楽しみながら理解できるよう、ALT に対して児童生徒との積極的な交流を促しています。

授業の実施に当たっては、教員と ALT が事前に授業の目標や内容、役割分担を共有しています。その上で、ALT が学習内容や場面に応じて自然な英語表現を示すなど、それぞれの専門性を生かしながら、協働して授業を行っています。

ALT を単なる授業の補助者ではなく、教員と共に外国語教育と国際理解教育を担う一員として位置付け、役割を共有するための指導や研修を行っています。

さらに、2025 年度から、市内小・中学校の外国語教育を担当する教員、ALT 及び教育委員会の担当者等が参加する「外国語教育主任等情報交換会」を開催しています。同会では、各学校における取組や課題、ALT の効果的な活用方法などについて意見交換を行い、学校間の情報共有と連携を深めることで、本市の外国語教育の一層の充実を図っています。

そのほか、ALT の増員に合わせ、ALT コーディネーター（以下「ALT Co.」という。）を配置しています。ALT Co. は、ALT の職務面及び生活面を支援するだけでなく、各学校の要望・課題の把握、教材や活動案、効果的な実践事例などを共有しながら、教育委員会、学校及び ALT の間に立ち、連絡・調整を行っています。

本市の ALT Co. は、ALT 経験者を採用しており、月 1 回の学校訪問を通じて、ALT や教員と授業を振り返り、成果や改善点を確認するとともに、自身が ALT で培った経験をもとにより良い授業づくりに向けた助言を行っています。こうした継続的な支援を通して、ALT の指導力や教員との連携を高め、市全体の外国語教育の質の向上を図っています。



（2）学校外における取組

「学校で学んだ英語を実際に使う機会として、市内在住の小学生を対象に、2021 年度から毎年 7 月に「さぬき市 English Summer Challenge」を開催しています。さらに、新たな取組として、12 月には「さぬき市 Christmas Party」の開催を予定しています。これらは、ALT との会話をはじめ、ゲームやクイズ、グループ活動などを通して、楽しみながら英語を使い、さまざまな課題に挑戦する体験型のイベントです。

活動では、英語表現の正確さだけを求めるのではなく、身振りや表情を交えながら、自分の知っている言葉を使って相手に伝えようとする姿勢を大切にしています。

さらに、本市には、閉校した小学校施設を拠点とし、ワーキングホリデーによってさまざまな国から来日した

外国人スタッフが、英語サマーキャンプをはじめとする教育イベントを企画・実施している事業者があります。こうした地域資源を本市の強みとして生かすため、同事業者と連携して市内在住の中学生を対象に「さぬき市 Summer Camp」と銘打ったイベントを 2025 年度から毎年 8 月に実施しています。

同イベントは、中学生が市内の施設に宿泊し、外国人スタッフとともに、英語を使った共同作業や異文化体験、成果発表などに取り組む 2 泊 3 日の宿泊学習体験です。異なる学校の生徒同士の交流や、さまざまな文化的背景を持つ外国人スタッフとの交流を通して、参加者のコミュニケーション能力や協働性を高めるとともに、多様な文化や価値観への理解を深め、国際的な視野を育む機会を創出しています。



(3) 学習意欲向上の取組

児童生徒の英語学習への挑戦を後押しするため、実用英語技能検定（以下「英検」という。）の受検料を補助しています。また、各中学校では、生徒が英検を受検する機会を確保するため、英検を年 2 回以上実施しています。

これらの取組により、生徒が英検に挑戦しやすい環境を整えるとともに、保護者の経済的負担の軽減と受検機会の確保を図っています。また、検定に向けた学習や受検後の振り返りを通して、自らの成長を実感し、「もっと学びたい」という意欲を高めることを期待しています。

さらに、日々の授業や ALT との交流、学校外での活動を通して身に付けた力を確認し、次の目標を設定する機会とすることで、継続的な英語学習となるよう取り組んでいます。

(4) 地域との連携

外国語や異文化に触れる機会を学校外にも広げるため、国際交流事業「ALT といっしょに Easter Party !」を毎年 4 月に開催しています。

このイベントでは、ALT と一緒に、イースターにちなんだゲームや工作などを英語で楽しみます。子供だけでなく大人も ALT と交流しながら、英語や海外の文化に親しむ機会となっています。

地域で ALT と交流することを通じて、英語は教室の中だけの学びではなく、人と人とをつなぐ身近なコミュニケーションの手段であると実感してもらうための取組です。

4 取組の成果

(1) 児童生徒や教員に見られた変化

これらの取組を通して、児童生徒が ALT に自ら話しかけたり、知っている英語を組み合わせながら自分の考えを伝えようとしたりする姿が見られるようになりました。

各イベントの参加者からは、「英語が通じてうれしかった」、「もっと英語を話せるようになりたい」といった声が聞かれています。こうした感想から、参加者が英語を使うことへの心理的な抵抗感を和らげ、英語学習への意欲を高める機会になっていると捉えています。

これまで、教員と ALT との意思疎通や役割分担には課題がありましたが、継続的な情報共有や ALT Co. の支援により、その関係に変化がみられています。現在では、教員と ALT の役割分担を明確にした授業づくり

や、児童生徒とALTとの対話を重視した活動を、各学校が主体的に企画する動きが生まれ始めています。

また、ALT Co.を通じて各学校の課題や実践事例を共有することにより、学校間の連携が深まり、市全体として授業改善に取り組む基盤が整いつつあります。

(2) 今後の課題

今後についても、ALTと児童生徒が触れ合う機会を確保できるよう、学校とのスケジュール調整を行うとともに、学校外においても、児童生徒が英語を実際に使い、英語力を高めることのできる取組を推進していきます。また、学校によるALTの活用状況の差を小さくし、効果的な活用方法を市内で共有していくことも課題です。さらに、小学校で身に付けた英語表現やコミュニケーションへの意欲を中学校の授業に生かし、学びを継続的に発展させていく必要があります。

5 おわりに

本市におけるALTの配置拡充を柱とした新たな取組は、まだ始まったばかりであり、学校現場の教職員との新たな調整が必要となる場面もあります。

そのような中、各学校の校長をはじめ、外国語教育を担当する教員など、多くの教職員の理解と協力により、取組の基盤が整いつつあります。

今後、児童生徒の英語力向上に向けた取組をさらに推進していくためには、学校との連携が不可欠です。引き続き、学校現場の教職員と緊密に情報交換を行い、現場の意見や課題を丁寧に把握しながら、学校と教育委員会が一体となって取組の改善と充実を図っていきます。

これらの取組を行い、さぬき市教育委員会では、学校での学びと学校外での体験をつなぎ、子供たちが外国語を使う楽しさや、人とつながる喜びを実感できる教育環境を整えていきます。

そして、ふるさとさぬき市への誇りを持ちながら、広い視野を持って未来に挑戦する子供たちを育んでまいります。